

名所

き所也、人死たる時、此毛坊主を頼み弔ふ也、代々譲りの袈裟をかけ、鉦うちならし、經念佛して、とぶらふ事也、俗人にて坊主の役をするゆへ名付たる也、此家は代々あり、常の百姓より一階おとり、縁組などはせぬ事也、本尊は多、大津繪の十三佛也、小き石地藏も有、

〔日本鹿子<sup>八</sup>〕同國<sup>○飛</sup>名所之部

ひだの國は山國也、海邊遠し、さして名所なし、ひだの細江と云有、又當國たくみの名有、

ひだのたくみ打墨繩にあらね共た、ひとすじに君をこそおもへ

二郡の川 位山 朝日の原

淺水の原など云名所有之、順道あらざる故在所不分明、

〔和漢三才圖會<sup>七</sup>〕當國神社佛閣名所<sup>○中</sup>

爾布川 位山 朝日原 清水原 飛驒細江

以上名所未分明、當國邊地不往還順路也、

飛驒人の眞木ながすてふ爾布の川ことはかよへど船ぞかよはぬ

雜載

〔延喜式<sup>二</sup>〕諸國健兒<sup>○中</sup> 飛驒國卅人<sup>○中</sup>

諸國器仗<sup>○中</sup> 飛驒國<sup>甲</sup>一領、<sup>乙</sup>十具、<sup>丙</sup>胡籙<sup>十</sup>具、

〔日本書紀<sup>十</sup>〕六十五年、飛驒國有一人曰宿儺、其爲人壹體有兩面、面各相背、頂合無項、各有手足、其

有膝而無脰、踵力多以輕捷、左右佩劍、四手並用弓矢、是以不隨皇命、掠略人民爲樂、於是遣和珥臣祖

難波根子武振熊而誅之、

〔日本書紀<sup>三十</sup>〕持統<sup>三</sup>朱鳥元年十月己巳、皇子大津謀反發覺、<sup>○中</sup>詔曰、新羅沙門行心、與皇子大津謀反、朕

不忍加法、徒飛驒國伽藍、

〔類聚三代格<sup>十二</sup>〕太政官符